

部局名

地域資源創成学部

担当：山崎 有美

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



15 陸の豊かさも
守ろう



テーマ

みやざき伝統野菜の次世代への継承

宮崎県は、温暖な気候や豊かな大地を生かし多数の農畜水産物を生産している。ピーマンのブランディングや、マンゴー、キンカン等のブランド作物輩出等により農業産出額も全国第5位(平成29年度農林水産統計より)と高く、過去5年間も堅調に推移している。宮崎県の農業の未来を担う次世代ブランド作物として、地域特有の伝統野菜が注目されている。しかしながら、消費の縮小や生産者の減少等で、地域の宝でもあるみやざき伝統野菜は存続の危機に陥っている。みやざき伝統野菜の価値を基軸として、地域の宝であるみやざき伝統野菜を次世代へと継承するために、産学官がそれぞれの強みを生かしながら、連携し実施している取組をご紹介します。

3 すべての人に
健康と福祉を



食品には、①栄養機能、②嗜好機能、③生体調節機能の3つの機能があり、伝統野菜も各機能においてユニークな性質を有している。しかしながら、その性質は目で見ることは出来ない。当研究室では、宮崎地域の伝統野菜を用いて、その栄養機能及び生体調節機能に着目し、みやざき伝統野菜の各種解析を行い、その基礎的知見を得る(みやざき伝統野菜のポテンシャルの「見える化」と共に、2. その機能を健康維持増進に繋げることができる新規加工食品の開発(みやざき伝統野菜のポテンシャルを生かした商品開発「魅せる化」)を目的とした加工特性解析を行っている。

4 質の高い教育を
みんなに



近年、子供達の食材への興味関心の低下が問題となっている。実際に海外における食調査において、子供達が調理前の食材の名称を答えることができないということが報告されている。その原因として、家庭で調理済みの食事やファストフードを食べる機会が多いことが一つあると考えられる。現在、日本は共働きの家庭が増加しており、調理済みの総菜や中食の需要が高まっている。そのため、今後日本の子供たちも海外の子供たちのように、食材の名前が分からなくなる可能性があると考えられる。中でも、地域の宝であるみやざき伝統野菜は店頭で見かける機会も少なく、認知度の低下が危惧されている。当研究室では、もぐもぐカルタの開発や給食室と連携した食育活動を通じて、食材に関心を持ってもらい、認知度向上を目指している。また、保育園の制作活動や劇の開発、関連動画の発信を通じて食文化の継承も促進している。当該活動を通じて、宮崎の未来を担う子供達に、教育を通じたみやざき伝統野菜の次世代への継承活動を行っている。

15 陸の豊かさも
守ろう



日本各地には、その土地の自然環境に応じて、昔の姿や形のまま、栽培が続けられ、郷土の方に愛され、今もなお、その土地の食文化に根付いている多様な野菜があり、これらの作物は伝統野菜と呼ばれている。宮崎県にも、特定の地域でのみ栽培されている伝統野菜が多数存在する。一方で、現在市場に流通している作物は、種苗会社などが開発した品種改良の種子から栽培されたものが大半を占めており、伝統野菜に触れる機会は稀である。この、地域固有の遺伝資源である伝統野菜を次世代へと継承することを目的とした活動を行っている。



担当：(所属) 地域資源創成学部
食品科学研究室
(氏名) 山崎 有美